NIKKEI

PRESS RELEASE

2017 年 12 月 25 日

株式会社 日本経済新聞社

第９回日経小説大賞が決定

第９回日経小説大賞（日本経済新聞社・日本経済新聞出版社共催）の受賞作が、赤神諒氏（45）の『義と愛と』に決まりました。戦国時代、豊後大友家の重臣である吉弘兄弟が政変といかに向き合ったかを描いた歴史小説であり、物語性や人物描写が評価されました。授賞式は 2018 年 2 月 21 日、東京都千代田区の日経ホールにて、一般公開で行います。授賞式に引き続き受賞者と選考委員 3 氏による座談会を予定しています。
なお受賞作は 18 年 2 月に日本経済新聞出版社から単行本として出版します。

「日経小説大賞」
1.　選考委員 辻原登、髙樹のぶ子、伊集院静の３氏
　　※辻原氏の辻は二点しんにょう
2. 賞金 500 万円
3. 第 9 回受賞者 赤神諒（あかがみ・りょう）氏
私立大学教員、法学博士、弁護士。1972 年京都市生まれ。同志社大学文学部卒、上智大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。
4. 受賞作の内容
天文 19 年（1550 年）2 月、豊後の戦国大名、大友家で後継者問題を発端に家中が二派に分かれるお家騒動、世に言う「二階崩れの変」が起こる。主人公は大友家の重臣である吉弘兄弟。義を大切にする兄・鑑理（あきただ）と、かつての敵将の姫への愛を貫く弟・鑑広（あきひろ）がこの政変にいかに向き合ったかを描く。
5. 応募状況 17 年 4 月から 6 月にかけて募集、応募作品数は 248 点

《参考》
第１回（2006 年 10 月）　武谷 牧子氏 「テムズのあぶく」
第２回（2008 年 10 月）　萩　　耿介氏 「松林図屏風」
第３回（2011 年 10 月）　梶村 啓二氏 「野いばら」
第４回（2012 年 12 月）　長野 慶太氏 「神様と取り引き」（出版時は「神隠し」）
第５回（2013 年 12 月）　芦崎　笙氏「スコールの夜」
第６回（2014 年 12 月）　紺野　仲右ヱ門氏「女たちの審判」
第７回（2015 年 12 月）　西山　ガラシャ氏「公方様のお通り抜け」
第８回（2016 年 12 月）　太田　俊明氏「姥捨て山繁盛記」
※年月は発表時点

本件に対する問い合わせ
日本経済新聞社 広報室　TEL:(03)3270-0251 (代表)